

アスリート 羽生結弦さんのスピーチを紹介

羽生結弦さん（28）が座長を務めるアイスショー『羽生結弦 notte stellata』の2日目公演が3月11日に行われ、最後のスピーチで東日本大震災への思いを語りました。震災から12年を迎える3月11日に、羽生さんのふるさと・宮城で行われた2日目のショー。タイトル『notte stellata』とはイタリア語で“満天の星”を意味し、「震災の日の満天の星のように、被災地から希望を発信し、少しでも人々が笑顔になれるキッカケになれば」という思いが込められています。

グランドフィナーレ後のスピーチでは、「こうやって希望や祈りをたくさん届けたつもりですけど、ここでなぜこの氷にたくさん手をつけていたか、そして手をついて上に気持ちを上げていたか、少しだけ宮城県民として説明させてください」と切り出します。羽生さんは「ここは宮城県民、仙台市民、そしてすべての人々にとって本当に特別な場所です。ここは“遺体安置所”だったんです」と声を震わせながら語ると、「だから本当にたくさんの今ある命が、この場所に集まって、その中で僕がこんな演技をしてしまっ、3月11日という日にこの演技をして、ここに氷を張って良いのだろうかという戸惑いはすごくありました」と心境を明かします。



「ただ今日『notte stellata』をやっ、きっと震災に関わらなかった人も、震災で苦しんだ方も、そして震災のニュースを見て苦しんだ方も、ちょっとでも希望だったり、優しさだったり、そんな時間ができたのではないかなと思っています。僕が生きて今日という日を皆さんの前で、この会場で迎えることができたのは、少しでも意味のあるものになったのかなと、自分を肯定できます」



「人生は何があるか分からないですし、今世界情勢も平和では無いかもしれません。火種はたくさんあります。ただそのなかで少しでも平和で優しさにあふれた日々が訪れるように、この3月11日の『notte stellata』という星たちは、いつも皆さんの平和と優しさと幸せを願っています」と話しました。

いよいよ行きますか!?



日時：4月29日（土）午前中

行先：あべのタスカル（大阪市立阿倍野防災センター）

詳細は、佐藤（総合科 生徒教育相談部）まで

大きな自然災害の被害を目の当たりにする度、日ごろからの備えが大切だと痛感するのに、時間が経つにつれ危機感が薄らいでいく…。

「あべのタスカル（大阪市立阿倍野防災センター）」は「リアルな災害体験」を通じて意識を高める防災学習施設。同センターは大阪市消防局の所管で、阪神大震災を教訓に、2004年にオープンした。大きな特徴は、災害時のさまざまな場面を疑似体験し、実際に自分で対応できるかどうか試みる「地震災害体験ゾーン」を備えている点だ。是非、この機会訪ねてみてはどうでしょう。

春の防災食クイズ

問1 南海トラフなどの巨大地震に備えて、最低約何日分の非常食を用意するのが良よいでしょう？

- ① 1ヵ月分 ② 1週間分 ③ 3週間分

問2 大人一人に必要な飲料水は、1日何リットルくらいでしょう？

- ① 3リットル ② 7リットル ③ 500ミリリットル

問3 水またはお湯を注ぐだけで食べられる、今や非常食のスタンダードと言われるご飯の名前はなんでしょう？

- ① ベータ化米 ② 干飯 ③ アルファ化米

～解答編～

問1 ② これまで自治体では、最低3日分の非常食の備を推奨してきました。しかし、超広域に被害予測される南海トラフ巨大地震などに備えると、1週間分以上の確保が必要とされている。

問2 ①大人はだいたい1日にち3リットルの飲料水が必要とされています。手洗用などの生活用水とは分けて考えましょう。

問3 ③ もともとアウトドア用品だったアルファ化米。お米が主食の日本人にとって、なくてはならない非常食のひとつです。